

討論メモ

「CSIS レポート」

令和 2年 12月 15日

1. 12月は、米国の有力なシンクタンクの CSIS が 2020年 7月に出した、“日本における中国の影響力について” のレポートを取り上げた。最初に、下山から下記項目に関する概要の説明があった。

- ① (日本に影響を与える中国の戦術)
- ② (回復力と脆弱性:日本特有の特性)
- ③ (回答:日本の経験からの教訓)
- ④ (結論:中国共産党インフルエンスの否定的なケースとしての日本)

2. 続いて出席者 7名による意見交換に移り、下記のような意見が出された。

- ・このレポートは、中国との深いつながりについて、二階幹事長、今井補佐官、公明党を名指ししたことで、日本で話題となった。
- ・公明党の竹入委員長の訪中など古い歴史にも触れている。
- ・名指しされた三者は、このレポートの影響か、それぞれその後、逆風が吹いている。

・経済界は中国に引きずられているようで心配だ。中国寄りの学会会議よりも財界の動きのほうが心配だ。

・豪州やカナダにおけるサイレント・インベージョンの様子などからすると日本の対応や警戒態勢は甘いのではないか。

・世界各国では孔子学院の閉鎖が続いているが、日本ではそんな動きはない。文部省も野放しのままだ。

・このレポートでもエリート校の早稲田の孔子学院受け入れの実態が詳述されている。

・早稲田の理工は優秀な学生多いが技術の漏洩はないのか。

・地方大学の経営維持のために、勉強しない留学生を多数受け入れている実態もある。

・海外から意欲のある学生が来て日本人学生と切磋琢磨するのが理想だ。

・全く通学しない留学生も受け入れている。文部省はしっかり管理すべきだ。

・日本のことを良く研究しているし、客観的な良いレポートではないか。

・このレポートでは、中国からの悪い影響は限定的とのことだが、果たして本当にそうか。

・CSIS はマイケル・グリーン、ジョセフ・ナイ、アーミテージなどいわゆるジャパン・ハ

ンドラーズがそろっている研究機関だ。どういう目的でこうしたレポートを出すのか、よく考えるべきだ。

- ・北海道の土地や水源など、ずいぶん中国に買い占められたそうだが、対応が遅すぎる。
 - ・孀恋の水源も買われたそうだ。
 - ・コロナの影響で中小企業が行き詰まると、中国に買収されかねない。注意が必要だ。
 - ・企業が買収されれば、土地も技術もついていく。国防上大変に重要だ。
-
- ・日本人はもともと人が良いうえに、戦後の民主主義教育で甘くなっている。
 - ・平和憲法があれば、平和が守れると思っている人が多いのは問題だ。
 - ・学生時代には平和憲法の良さばかりを叩き込まれていて、疑問を持ったのは、社会人になってからだ。
 - ・東大では、いまだに平和憲法を教えている。
 - ・今、憲法改正の国民投票をやったら、どういう結果になるだろうか。
-
- ・首相はちまちましたことばかり言っているが、考えることの七割は日本の安全保障でよい。
 - ・久しぶりのたたき上げの首相だ。もう少し長い目で見たい。
-
- ・中国のコロナの実態はどうなっているのか、報道されないのだからわからない。
 - ・米国の大統領選挙の混乱はひどい。中国の強権国家のほうが良いという考えになってしまうのではないか。
 - ・三国志を始め今、中国ドラマがブームになっている。
 - ・八王子に“論語読みの会”があって人気だ。
 - ・日本人は論語に弱い。
 - ・中国はやり方がうまい。
 - ・息子や嫁たちも暢気で、警戒心もなく、中国に飲み込まれるのではないかと心配だ。

以上